

ドーバー海峡と津軽海峡の
横断泳報告 2009



Report of
the English Channel swim
and the Tsugaru Channel swims
in 2009

トラジオンスイミングクラブ
TRUDGEON SWIMMING CLUB

プロフィール



藤田美幸（ふじたみゆき）

1966年1月 愛知県岡崎市出身
海好きな父親の影響を受け、幼い頃から海で泳いでいた。

学生時代は水泳部。

卒業してからもマスターズとして競泳を続け、専門種目は自由形とバタフライ。長距離を得意とし、1,500mのレースがあると遠く北海道まで遠征していた。

1998年、OWS レースデビュー。
熱海での3,200m。

1999年のテレビ番組、芸能人（ウリナリ）の「ドーバー海峡横断部」を観てドーバー泳を知る。

2000年、城ヶ島のOWSレースで主催者だった石井氏と出会う。

2002年、リレーでドーバーを渡る。

2004年からソロで2-wayを目指すようになり、現在に至る。

2005年から津軽も目指す。

仕事：家業「(有)フジタヤ」を経営
(和菓子製造販売)

趣味：仕事 水泳 ダイビング
ビールを飲む 寝る



石井晴幸（いしいはるゆき）

1952年12月 東京都北区出身
1973年、日本大学文理学部体育学科在学中に、障害者を対象に海を泳ぐことを目的にしたトラジオンスイミングクラブを発足。

以後、本人自身も含め、国内外の海峡横断を手懸け、その数は100例を軽く越す。

1987年、海の泳ぎの普及と発展を目的に「海峡横断泳実行委員会」を設立。

1989年より「スイムマラソン12大会」、「遠泳フォーラム」、「城ヶ島ロングディスタンススイミング大会」、他、「大会や個人的なチャレンジのサポート」を実施。

2002年、ドーバー海峡リレー泳をサポート（藤田美幸参加）

2006年より“遠泳のサポートのみ”に絞って活動中。

仕事：トラジオンスイミング
クラブ代表者

趣味：スポーツ 音楽 旅行
ビールを飲む（お酒でも可）

We watched priceless of the Channel swim.

— お金で買えないドーバー泳の発見 —



スイマー：藤田美幸
通称：キンちゃん
イギリスでは「ミユキ」と呼ばれていた。



ディレクター：石井晴幸
キンちゃんの何でも屋
イギリスでは「イシイ」と呼ばれていた。

キンちゃん << **ドーバー泳の経歴** >> (全てイギリスからフランスへ)

回数	日付	記録
1.	2002年8月3日	12時間03分(リレー)
2.	2004年7月24日	失敗(以下全てソロ)
3.	2004年7月30日	失敗
4.	2005年7月14日	17時間03分
5.	2005年8月2日	13時間41分
6.	2006年7月18日	13時間34分14秒
7.	2007年7月10日	13時間59分
8.	2007年8月10日	13時間54分
9.	2008年7月23日	14時間02分
10.	2009年8月3日+1日	17時間18分27秒

“Queen of the Channel in Japan”

<7回完泳：日本のドーバー泳女王> (日本人ソロスイム最多完泳者)

受賞：2005: The Gertrude Ederle Award

For the most meritorious CS&PF swim of the year by a woman

Presented by the Channel Swimming & Piloting Federation

ノミネート：2009 World Open Water Swimming Woman of the Year Award (USA)

キンちゃんの海練習

(ドーバー & 津軽への道)

(2008年9月～2009年6月)

主な練習場所は静岡県沼津市淡島～大瀬崎間。
駿河湾の北東部、伊豆半島の首根っこのところ。

(右図)

下図は淡島(右)～大瀬崎(左)間を拡大したもの。
↔は泳いでいるコース。(距離は片道約10km)



静岡県沼津市淡島～大瀬崎 (約 10km)		
2008年	淡島 ⇒ 大瀬崎	大瀬崎 ⇒ 淡島
09.16 3-way 11時間 45分	2nd leg: 3時間 05分	1st leg: 4時間 04分 3rd leg: 4時間 36分
09.30 2-way 8時間 40分	1st leg: 2時間 37分 (4名団体泳)	2nd leg: 6時間 03分 (4名団体泳)
10.21 4-way 15時間 13分	1st leg: 2時間 54分 3rd leg: 3時間 18分	2nd leg: 4時間 49分 4th leg: 4時間 12分
11.03 5-way 11時間 34分	2nd leg: 3時間 20分	1st leg: 3時間 46分 3rd leg: 4時間 28分 (3-way でリタイヤ)
12.09 3-way 10時間 13分	2nd leg: 3時間 14分	1st leg: 3時間 29分 3rd leg: 3時間 30分
12.24 5-way 4時間 46分		1st leg: 4時間 46分 (1-way でリタイヤ)
2009年01月分データ紛失		
02.11 3-way 4時間 05分		1st leg: 4時間 05分 (1-way でリタイヤ)
02.24 2-way 5時間 20分	1st leg: 2時間 39分	2nd leg: 2時間 41分 (途中でリタイヤ)

静岡県熱海市初島～網代間 (約 6km)		
2009 年	初島 ⇒ 網代	網代 ⇒ 初島
03.10 2-way 4 時間 57 分	1 st leg: 2 時間 57 分	2 nd leg: 2 時間 00 分
静岡県沼津市淡島～大瀬崎 (約 10km)		
2009 年	淡島 ⇒ 大瀬崎	大瀬崎 ⇒ 淡島
03.26 2-way 5 時間 00 分	1 st leg: 3 時間 13 分	2 nd leg: 1 時間 47 分 (途中でリタイヤ)
04.07 2-way 6 時間 46 分	1 st leg: 3 時間 14 分	2 nd leg: 3 時間 32 分
04.14 2-way 7 時間 06 分	1 st leg: 2 時間 56 分	2 nd leg: 4 時間 10 分
05.19 3-way 10 時間 52 分	1 st leg: 3 時間 20 分 3 rd leg: 4 時間 26 分	2 nd leg: 3 時間 06 分
05.26 4-way 16 時間 26 分	1 st leg: 2 時間 44 分 3 rd leg: 6 時間 43 分	2 nd leg: 2 時間 34 分 4 th leg: 4 時間 25 分
06.09～10 5-way 20 時間 07 分	1 st leg: 3 時間 08 分 3 rd leg: 3 時間 04 分 5 th leg: 6 時間 18 分	2 nd leg: 4 時間 17 分 4 th leg: 3 時間 20 分
06.23～24 6-way 13 時間 03 分	1 st leg: 3 時間 30 分 3 rd leg: 4 時間 03 分	2 nd leg: 3 時間 20 分 4 th leg: 2 時間 10 分 (途中でリタイヤ)
平均 (完泳のみ)	淡島⇒大瀬崎 3 時間 34 分	大瀬崎⇒淡島 4 時間 02 分
最速	2008.09.30 2 時間 37 分	2009.05.26 2 時間 34 分
最遅	2009.05.26 6 時間 43 分	2008.09.30 6 時間 03 分

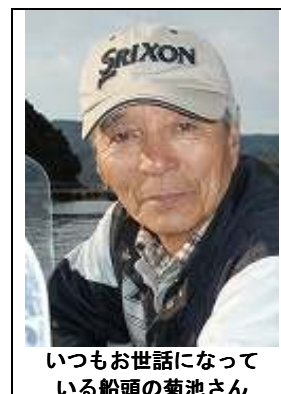
※ 平均完泳時間から見て、普段、潮は淡島から大瀬崎に向かって流れているのがわかる。

※ 面白いのは最速も最遅も同日に記録されていることだ。

この日の潮の向きが顕著に現れている。



天気の良いと富士山が見える。



いつもお世話になっている船頭の菊池さん

完 泳 証



*The Channel Swimming &
Piloting Federation*

hereby certify that

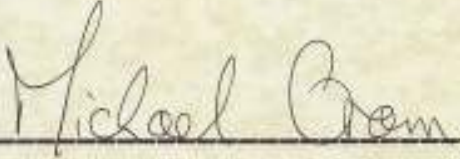
Miyuki Fujita

swam the English Channel

England to France

on the 3rd of August 2009 in

17 hours 18 mins 27 secs


Michael Brem *Hon. Secretary*

CS&PF office: 12 Vale Square, Ramsgate, Kent, CT11 9BX, UK - Tel: 00 44 (0)1843 852858

キンちゃんが行く（ドーバー編）

藤田美幸

前から私は「人と違うことをして一番になりたい！」と思っていた。そしてドーバー海峡横断泳の 2-way（往復泳）は、まだ日本人では誰も泳いでいないということで、初めから 1-way（片道泳）ではなく、2-way をチャレンジした。しかし 10 時間で大腿部の痛みから 1-way も行かずに不成功。そしてもう一度、一週間後に 1-way にチャレンジするチャンスをもらい、17 時間 35 分泳いだが、フランスまで後 3km という所で不成功。その後フリーダにアドバイスを貰った。



フリーダ（左）のアドバイスを受けるキンちゃん（右）

「ドーバーを泳ぐには前を見てはいけない。自分にとって何の得にもならない。『まだまだ着かない。』というストレスから精神力が弱くなるだけで、フランスが近付いて来るわけではないからね。途中で止まったり喋ったりしてもいけない。潮に流されるだけで泳ぐ距離が長くなるだけだよ。自分にとってマイナスになる行為をしてはいけない。もう一度 1-way から始めなさい」と言

われた。それは 2004 年のことだった。

次の年からは 1-way から出直した。それからは 6 回も 1-way を成功するようになり、『もうそろそろ 2-way をチャレンジする時か！？』と今年もドーバーへ来た。滞在 35 日間の中で、毎日「いつ泳げるのか？」と緊張しながらその日を待っていた。

後から来る皆はどんどん泳いで行く。私の番はちっとも回って来ない。そんな中を「ミユキはいつ泳ぐんだ？」と皆によく聞かれた。しかし私の泳ぐ日はパイロットのニールが天候を判断して決める。つまり私には全くわからずに帰る日が近付いていた。

内心とても焦っていた。ただパイロットを信じて指定する日を待つしかない。特に 2-way は二日間天候が良くないと泳げない。ドーバーの天候は去年から異常気象で、良い天候は一日おき。1-way なら一日で終わるので皆は泳いで行く。だから取り残されて行く始末なのだ。

天候が悪ければ泳げず日本に戻っていただろう。でも「1-way だけでも泳いで帰りたい」という願いは伝えておいた。

日本へ帰る一週間前、土日の海練習でフリーダから「ミュキは月曜か火曜だ」と言われた時には『待っていた日がやっと来た!』と緊張がほぐれ、涙が止まらなかった。ずう〜と待っていたからだ。



キンちゃん(左)とジェニー(右)

しかし、肝心要のニールからはちっとも連絡が無い。そして月曜日を迎え、ビーチで仲の良いジェニー(オブザーバー:立会人)と一緒にいた時に、ジェニーの携帯にニールから電話が入り、「今日の夜19時にマリナ、2-wayだ。ミュキが一緒だったら伝えてくれ」という内容の連絡が入った。

もう「やったー!」という喜びしかない。待ちに待った日が来て、

それも仲の良いジェニーがオブザーバーだ。嬉しくて嬉しくて、早速用意をして、ルイスのマッサージを受け、直ぐにベッドに潜った。いよいよチャレンジが出来るのだ。

“スバ”(船名)に乗り、準備万端“チャンネルグリース”を付けて、スタートするシェークスピアビーチが見えた途端、石井コーチがオナラをした。それがスバの中、一面に広がり、臭い臭い。ジェニーに「石井コーチ、オナラをしたよ。スティンキヤー(アニメ「ムーミン」に登場する臭いキャラクター)！」と告げると、鼻を摘んで掌で扇ぎ、パイロットたちも笑いながら鼻を抑えていた。

スタート前から笑いが飛び、泳ぎながらも思い出し、何回笑ったことやら数知れない。楽しく夜間泳ぐことは良いことだね。

シェークスピアビーチから出て潮の流される方は何回もやっているから知っているが、同じ景色を二回も見るのは初めてで、『進んでいないのか?』と疑問

「チャンネルグリース(Channel grease)」

海水(塩水)はプールのような淡水と違って粘度がありベタベタしている。その中で長時間泳ぐと首や腋の下など、皮膚の擦れる部分のみみず腫れになったり皮が剥けたりする。これを予防するためのグリース(潤滑剤)。

ラノリン【lanolin 羊毛から取れる脂】(80~90%)とワセリン【Vaseline:石油を精製して取れる脂】(10~20%)の混合脂。

女性は水着の肩紐の部分にも塗る。

保温用ではない。

チャンネルスイマーがよく愛用する。

ちなみにラノリンもワセリンも医薬品(軟膏など)や化粧品(リップクリームなど)の基材として使われている。

に思いながら、時折私の下を通る赤クラゲにヒヤヒヤしながら夜間泳の始まりだ。

浮いていた大きなクラゲ、死んでいるのか傘は刺さないやつか、思い切り入水する掌で触ったが、長い足の方で刺され、痛い思いをした。

40分泳いだ辺りで試しておいたゴーグルから海水が入り出した。試した時はフラットの海面だったので海水が入って来なかったが、今は波がある。海水が入って来て目が痛い。

遠泳は『目が命』と言っても過言ではない。経験者はよくわかる。何回痛い目にあったかわからない。次の栄養補給の時に新しいゴーグルと交換したよ。

夜間泳は慣れているが、眠たくなってボーっとしてしまうのが欠点だ。しかし途中、「ぎゃー!」、「ワー!」と叫び声が聞こえ、『何かしら?』とビックリして泳ぎを止めると、泳ぎ終わったリレーチームがドーバーへ帰る途中、応援に駆け付けてくれたのだ。それで気分がスッキリした。

潮止まり（スラッグ:転流時）に入り、フランス側に近付くと、今度は波高2mの波が前から押し寄せて来た。フランスに近付くと海が暴れ出す特徴のあるのがドーバーの癖だ。潮が速いのだろう。

しかしもう明るくなってきたので目が覚め、楽しくてしかたがない。得意のラフウォーター、面白くて面白くてしかたがなかった私だけれど、だいたい1-wayは14時間で着くの
に14時間泳いでもフランスは遥か彼方。『マジかい!?!』と思いきや、「後4時間ぐらいは掛かる」とコーチから言われ、『やっぱりあの時に二回見た景色は流されていたんだ』と気合いを入れ直し、頭の中を「4時間」にインプットした。



ドーバーを力泳するキンちゃん

結果、17時間20分掛かり、ちょっと1-wayでは時間が掛かりすぎて、コーチに「行きにこれだけ時間が掛かってしまったら、2-wayなんて無理だよ。今回は1-wayでいいよ」と告げた。しかしコーチから「折り返してもう少し泳ぎなさい」と言われ、3時間ぐらい泳いだ所で「もういいか?」と聞いたら、「今

から風も無いし波も無くなる。こんなに良い条件はめったにないから泳ぎなさい。あと 8 時間ぐらいだ」。

頭のインプットは「8 時間」に設定され、一生懸命泳いだよ。頭の中は『後 8 時間泳げば夢がかなうんだ。成田に着いてテレビ局が来ていたらどうしよう。旦那さん、お母さん、船頭さん、会社の人たち、そして回りの皆が喜んでくれる。ドーバーの仲間も泳ぐことを待っているんだ。きっと今着ている水着は記念に残されるだろうな！ 祝賀会もたくさんあるかな？ 夢がかなったら次は何をしようか？ 私に遠泳を取ったら取り柄なんか何もないよ。ソロでは 1-way を 10 回は泳ぎたいよ。“60 歳 10 ヶ月と 4 日”の女性最高齢記録を更新するか！ もう冬の海でもロングはそんなに練習しなくて済むんだ』とか、楽しいことばかり考えていた。



フランス、カレーのビーチを手を上げて振り返すキンちゃん

何回も何回も身体中が痛くなり、『断念しようか』と思ったが、まだまだ手が動く。一生懸命泳いだ。

また夜間泳が入り、寒くなったが必死だ。

イギリスの光が見え、段々近付いて来たのがわかる。

栄養補給の時、「もう泳げない、寒い。痛い！」と告げるが、「泳げ。泳げ。ゴー！ ゴー！」と、船の中の皆と私との言い合いが始まった。

「皆からたくさんの応援メールが来とるぞ！」と大声で応援するコーチに対し、「嫌だ、泳げん！」と泣き叫ぶ私の声は夜のドーバーの海へ響き渡っていた。

身体の芯まで冷え切ったのは初めてで、手首まで痛くなり、後 5 時間（直線距離 4 マイル）で断念した。

身体中が痛いのと芯まで冷え切った身体に、頭のメンタルが負けてしまったのだ。後 5 時間が泳げない。

そういえばドーバーを初めて泳いだ時も、『後 5 時間』が泳げなかった。あの時もフランスの白い建物が見えていた。「前を見てはいけない」という指導を忘れていたね。そして喋ってはいけない。時間を聞いてマイナスになったね。前を見て、『まだあれだけ泳がないかん。もう疲れているし、ピッチも遅くなるし、5 時間以上は必ずかかる』と勝手に思いこんでしまい、もう泳げない自分が出て

来てしまった。ゆっくりでも良いから泳ぎ続けていればいつかは着くのに、それが出来ないのだ。

遠泳は精神力が一番強くなければ泳げない。プールでは 30 時間、海では 20 時間 07 分泳いだ経験がある私は、1-way で止めなくてここまで泳げて良かった。止めていたら練習成果が全く分からないし、そこまでの人しか残らないのだ。自分がどこまで出来るかチャレンジ出来て良かった。

次の練習に繋げることは、もちろん次のドーバー泳にも繋げることが出来るのだ。初めは 10 時間でリタイヤした自分が、今は 28 時間 42 分も泳げるようになった。諦めないで続けて良かった。ここまで泳げるとは思ってもいなかったからだ。

大きな収穫だ。泳がなければわからなかったことだ。自分を試すことが出来た。

ここまで導いて下さった大勢の皆さんへ感謝している。一人では何も出来ない。皆さんが見守ってくれるからこそ、出来ることだと思っている。たくさんの応援ありがとうございます。まだまだ年は重ねていくが、私の目標、夢は、そこまで近付づいている。楽しみながら続けて行こう。

— ドーバー海峡 —





左上がイギリス、右下がフランス
イギリスからフランスへ泳ぐ。(1-way)
線が蛇行しているのは潮で流されるため。

青い線と、それに併走する細く赤い線は2007年に泳いだもの。
いずれもフランスのヴィサンに到着している。
ヴィサンの左に“ポコリ”と出ているのがグリ・ネ岬

フランスで折り返して途中まで行っている線が今年のもの。
折り返し地点はカレー

すべてスタート地点はイギリスのシェークスピアビーチ
チャンネルスイミングとチャンネルスイマー

ドーバー海峡横断泳をイギリスではチャンネルスイミング (Channel swimming) と呼び、
ドーバー海峡横断泳の成功者をチャンネルスイマー (Channel swimmer) と呼ぶ。

現在、チャンネルスイムをサポート、公認する団体は2つあり、1つはCSA Ltd (Channel
Swimming Association Ltd)、もう1つはCS&PF (Channel Swimming & Piloting
Federation) である。キンちゃんはCS&PF。

ドーバーの一番長い日

石井晴幸

8月1日（土）、ビーチでの練習でドーバー泳の世話役フリーダから「ミュキは月曜か火曜に泳ぐ」と言われたが、肝心要のパイロットのニールからは何の連絡も無かった。しかしフリーダにそう言われたキンちゃんは、残り少ない滞在日を考えてもそう遠くない日付で泳げるだろうと確信していた。そこでモチベーションアップとコンディション調整のために、『今日は泳がないでおこう』と考えたのだ。だがフリーダはそれを許さなかった。

フリーダ「今日のミュキは3時間」
と黄色いスイムキャップを渡した。

週末に行われるビーチでの練習は、練習に来たスイマーの希望や調子を見てフリーダが何時間泳ぐかを判断する。そして泳ぐ時間が3時間未満なら黄色のスイムキャップ、3時間以上だと赤のスイムキャップが配られる。そのキャップにはナンバリングがあり、名簿のナンバーと一緒に氏名が記載される。ちなみに赤キャップ



ドーバー泳の世話役フリーダ（前）とキンちゃんの世話役石井（奥）

の場合、2時間後から1時間毎に栄養補給のサービスまで受けられる。それを支えているのはバリーやアイリーンを初めとするボランティアたちの陰の力だ。

栄養補給のときにキャップのナンバーと名簿を照合し、チェックが入る。安全面もバックアップしているのだ。

ドーバー海峡 (Strait of Dover) について

ドーバー海峡はイギリスとフランスを隔てている英仏海峡 (English Channel) の北端にある最狭部で、北海に面しており、水深は最大でも 40m ほどと浅い。そこに 3～7m の干満差が発生するので、潮流は最大で7ノット (時速 13km) もの速さに達する。ちなみに英仏海峡の南部は大西洋に面し、チャネル諸島がある。



いつもならフリーダはキンちゃんに赤キャップを渡して「はい、6時間」と言うのだが、今日が黄キャップになったのは、それだけフリーダも本番前のキンちゃんに気を使っただけのことだろう。しかしキンちゃんとしては泳ぎたくなかったのだ。それでもフリーダに言われたからには逆らえない。シブシブ3時間を泳いだ。

2日(日)のビーチ練習ではキンちゃんはキャップさえ取りに行かずにフリーダから離れた場所で座っていた。ところがビーチでの水泳仲間、モーガンから「フリーダから預かった」と黄キャップを渡され、「3時間だって」と告げられてしまった。シブシブでも泳ぐしかない。

このようにキンちゃんが行かずとも、スイムキャップの方からキンちゃんにやって来る。それだけ他の水泳仲間からも可愛がられていたし、「ミュキはビーチのマスコット」と親しまれていた。

ちなみに最大7時間泳まで面倒を見てくれる。その間、スイマーの荷物管理から栄養補給、履物の上げ下げまでやってくれるのだから、痒いところに手が届くサービスだ。そしてこのボランティアグループにキンちゃんも私も参加している。

普通ドーバー泳は天候と海の状況を判断して、泳ぐ24時間前にボートのパイロットから出発の連絡が入る。しかしキンちゃんのパイロット、ニールは慎重なのかノンビリなのか、なかなか連絡をよこさない。去年だって泳ぐために滞在期間を延長したにもかかわらず、泳ぐ12時間前によく連絡をよこしたくらいだ。まあ腕は評判だし「慎重だ」と言えば聞こえは良いが、泳ぐ方にしてみればコンディション調整が難しい。

連絡が無いままに3日(月)の朝を迎えた。いつもならキンちゃんは朝6時前に起きてキッチンでゴソゴソしている。朝食の準備、お昼のお弁当作りである。そして朝9時にはビーチに着いて練習を始める。ところがこの日は朝からノンビリした。平日にフリーダはビーチに来ないし、いつ泳ぐかわからないので“寝溜め”をしたのだ。



ビーチの仲間たち
左から ダン(ダニエル) ミュキ リック スティーブ

朝 10 時頃ビーチに行くと、同じドーバー泳を目指している水泳仲間、オーストラリア人のスティーブ（シドニーの消防士）が練習していて、その奥さんのジェニーと愛息のマイケル（6 歳）が遊んでいた。

スティーブとは 2 年前にも会っている。2 年前—ロンドンに住むトム（フリーのジャーナリスト）がイギリスでは高級な雑誌「テレグラフマガジン (Telegraph magazine)」の依頼を受け、ドーバー泳を紹介する記事を執筆することになった。まあイギリスでドーバー泳は知らない人がいないほどのメジャーな分野であるが、遠い異国の文化を持つスイマーが、どのような切り口でドーバー泳に臨むのか、そこを視点にドーバー泳を紹介した。つまりキンちゃんが主人公である。その中でスティーブもジェフ（オーストラリア）も出てくるのである。

このトムの記事「**Channel number one**」は、ドーバー泳の歴史、珍記録、新記録、生理学や心理学の専門家から見たドーバー泳など、実に多角的にとらえた素晴らしい出来栄であった。これからドーバーを目指そうという者には必見の価値がある文献である。

この取材があった 2007 年、キンちゃんは 1-way を 2 回成功させているが、スティーブは失敗に終わっていた。今年は彼にとってリベンジなのだ。しかも何と彼は一家総出で 3 ヶ月の休暇を取りドーバーへやってきた。まあ私たちとは最も親しくしていただいた家族なのでもある。

ビーチで遊ぶジェニーとマイケルの輪に私たちも加わっていると、ジェニーのケータイが鳴った。ニールからで、ジェニーにオブザーバーの依頼である。ドーバーに来てジェニーはオブザーバーのボランティアをしていた。そしてそのオブザーバーの相手とは、2-way を目指しているキンちゃんだった。

ニール「今日の 19 時にマリーナ集合だ。側にミュキがいたら、彼女にも伝えておいてくれ」

私たちは手を取り合って喜んだ。

キンちゃんはこれまたビーチのボランティアスタッフでもあるルイスのマッサージを受けると、「寝る」と言ってそのままベッドに潜り込んだ。キンちゃんの素晴らしいところは、このようにいつでも寝ることが出来る場所だ。その間、私は栄養補給品作りに没頭する。



スティーブとジェニーの愛息
マイケル（6 歳）とキンちゃん

補給品はマキシム（イギリス製:炭水化物 97%+ビタミン B2 2%+その他）と呼ばれるスポーツ用の栄養補給品と、グルコース（ブドウ糖+ビタミン C）に、紅茶か日本茶で味付けをする。これをプラティパスと呼ばれる軟らかい水筒に 300ml 入れ、日本の“使い捨てカイロ”（貼るタイプ）でサンドする。こうすることによって中身の栄養補給品は火を使わずとも 50℃くらいの温度が保たれ、16℃の海水温の中にいるキンちゃんに温かい栄養補給品が提供できるのだ。

栄養素としてはこの 300ml で御飯茶碗なら軽く一杯分、食パンなら二切れ分のカロリーが摂れる。そしてこの補給が 10 秒以内で終わるように訓練した。

タイミングとしては 40 分毎にこれを飲ませる。順番としては紅茶、紅茶、日本茶、紅茶、紅茶、日本茶・・・と、ワルツではないが三拍子で 3 回に 1 回が日本茶になる。この日本茶が来たタイミングで 2 時間、4 時間、6 時間、8 時間・・・と 2 時間毎の時間がキンちゃんにわかるようにしてある。

石井「夜、寒くなったら 30 分毎にしようか？」

キン「それは私が判断して指示を出す」

との手配も完了した。

いずれにせよ予定完泳時間は 30 時間。単純計算で栄養補給は 45 回。まあ余裕を持って 50 回分の栄養補給品を作ることにした。

$300\text{ml} \times 50 \text{ 回分} = 15 \text{ リットル}$

けっこうな量である。これが全てキンちゃんの胃袋を通過するのかと思うと、“ゾッ”とするほどだ。

ところで私たちが滞在している施設は「フラット」と呼ばれるアパートで、日本で言うならウィークリーマンションとかマンスリーマンションに相当する。だが広さは日本の比ではない。約 20 畳の居間、10 畳のベッドルーム、10 畳のダイニングキッチン、トイレにバス（バスタブ付き）。さらにキッチンには電磁調理器（オーブンを含む）、電子レンジ、電気ケトル（湯沸し器）、冷蔵庫、洗濯機、トースターなどなど・・・、と、炊飯器を除けば中身の家財道具も言っちゃ何だが我が家より充実している。で、我々の部屋は地下だがだいたい 3 名くらいが適当な居住空間である。まあ 4~5 名になってもさほど狭くは感じないだろう。そこを 2 名で使っているのだから贅沢である。



栄養補給
プラティパスでマキシムを飲むキンちゃん

これで1泊40ポンド(約8,000円)。普通のB&B(Bed and Breakfast:文字通りベッドと朝食が用意された比較的low価格で小規模な宿泊施設)で、シングルなら35ポンド(7,000円)くらい(部屋は6畳程度)、ダブルまたはツインなら50ポンド(10,000円)くらい(部屋は10畳程度)。それで部屋の設備は洗面所、テレビ、電気ケトル、インスタントコーヒー、紅茶くらい。シャワー(バスタブ無し)、トイレは共同。

まあ短期の滞在ならB&Bが便利だが、長期の滞在なら断然フラットがお得に思える。ちなみに1日の生活費(食費、その他必要経費)を私は2人で20ポンド(約4,000円)と予算に計上していた(もちろん半分の10ポンドはビール代)が、キンちゃんが日本から米、味噌、醤油、調味料、その他を持ってきてくれたおかげで充分予算内に納まった。

2007年8月9日、ドイツからやって来たマギーは11時間40分12秒でチャネルスイマーになった。そのマギーがドーバーに滞在中、何故か私たちととても馬が合い、仲良くなった。以来、去年(2008年)、今年と5日間くらいの日程ではるばるベルリンから私たちに会いにドーバーまでやって来てくれる。もちろんマギーがドーバーを泳ぐ目的ではなく、私たちに会うのが目的でやって来てくれるのだ。今年は7月16日から21日まで居てくれた。

7月20日、私たちはマギーがお気に入りの寿司を作ることにした。翌日に帰るマギーのための“寿司パーティ”である。せっかくなので、パイン一家(スティーブ、ジェニー、マイケル)にも“寿司パーティ”をやるから遊びにおいで」と誘った。マギーはドイツでは一般的な家庭料理、「ウィンナーシュニッツェル」を作ってくれた。



箸の使い方をマイケルに教えるキンちゃん

キンちゃんはマギーが肉、卵系が続くアレルギーで食べられないので、よく魚料理を作っていた。他にキンちゃんの地元岡崎の八丁味噌に、魚や野菜などタップリ入った“トン汁”のような具沢山の味噌汁を作る。これが“スティーブ用”になると魚が肉に変わる。それがスティーブはものすごく気に入ったようで、何杯もお替りをしていた。

こんなホームパーティをするにも、私たちが滞在したフラットは十分な広さと設備を提供してくれた。私たちお気に入りのフラットなのだ。

一昨年からこのフラットを使うようになったおかげで外食はしなくなった。またキッチンが自由に使えるので、遠泳の栄養補給品作りにも強みである。

で、一階には同じく 2-way を狙っているインドのレシミたちファミリー（レシミ、妹、弟、お母さん）が滞在している。レシミとは 2005 年にドーバーの新聞で紹介された仲である。以来、レシミも 2-way を目指して毎年ドーバーに来ている。昨年は私たちが帰る頃にレシミたちはやって来た。ちょうどすれ違いでビーチでは会っているが、ゆっくり話す時間は無かった。



スティーブとマギー

今年はほぼ一緒の滞在なので、ゆっくり話すことも出来た。レシミたち姉妹の練習は朝早く、午前 8 時には泳ぎ出している。キンちゃんも 9 時前には泳ぎ出すのでよく一緒に泳いでいた。

レシミの話によると、昨年は天候が悪く、2 ヶ月滞在して結局 2-way は泳げなかったと言う。確かに昨年は天候が悪く、私たちも 3 週間の滞在で泳げず、結局滞在期間を延長してようやく 1-way を泳いだ程度だ。今年も天候が悪く、キンちゃんは 1-way と 2-way の 2 回を泳ぐ予定だったが、結局 1-way は泳げずにいた。イギリスの天候は日本に比べて変化が早い。なかなか 30 時間も天候は落ち着いてくれないのだ。

そんな待ちに待った今日の昼時、レシミが私たちの部屋まで降りてきて、レシミ「お母さんがチャパティ焼いたので食べにおいでよ」とお誘いがかかった。

石井「ありがとう。でもミユキは今日泳ぐため、もう寝ているんだ」

レシミ「いいよ。イシイだけでも食べにおいでよ。ミユキの分は、彼女が起きた頃に食べられるよう、お土産に持たせるから」

今日、18 時 45 分にマリーナへ行くためにタクシーを呼んである。ジェニーたちが滞在しているフラットは私たちのフラットから 100m ほど離れたところだ。スティーブも見送りに来ると言うので、18 時 40 分に私たちの部屋まで来

でもらうことになっている。それまでにキンちゃんの泳ぐための準備を完了しておかなければならない。チャパティのお誘いは嬉しいのだが、あまり時間はない。かといって無碍に断るのも何かと気が引ける。そこで「じゃあちょっと」とお邪魔することにした。



キンちゃんとレシミ

本場インドの本格的チャパティとチャイ（インドのミルク紅茶）を美味しくいただいた。レシミたちはこれからジブラルタル海峡（スペイン～モロッコ）を泳ぎに行つて、再びドーバーの2-wayを泳ぎに戻ってくると言う。1974年に私がジブラルタルに行ったことがあるものだから、いろいろと質問攻めにあつた。

とにかくインドでは部屋数が30を越す豪邸が二つもあつて、庭にはマンゴーやパパイヤ、椰子が茂っているようである。

レシミ「いつでも歓迎するからミユキと遊びにおいでよ」
とのこと。そして日本の海も泳ぎたがっていた。

チャパティのお礼に折り紙を折つた。鶴とエリマキトカゲだが、特にエリマキトカゲは喜ばれた。

チャパティをご馳走になっている時間が大幅にオーバーした。慌てて帰ろうとすると、レシミたち姉妹はインドの正式な挨拶をしてくれた。それは男性（私）が直立し両手を前に出すと、女性（レシミ）は私の両手、両膝、両爪先と順番に触っていき、私の前で深々と頭をたれる。その彼女の頭を私が両手で撫でるのだ。これをレシミの妹にもやった。こうすることでインドの神様は私に降りて来るそう。こうして私はインドの神様まで手に入れた。キンちゃんが成功しますようにと。

部屋に戻るとまだキンちゃんは寝ていた。お土産にいただいたチャパティをテーブルの上に置くと、慌てて栄養補給品作りの続きに取り掛かる。

16時にキンちゃんが起きたとき、まだ準備は終わっていなかった。急いで協力してもらって作る。しかしまだ終わらない。

更に18時30分にはスティーブファミリーが来てしまい、18時40分にはタクシーが来てしまった。

5リットル×3本の栄養補給品入りペットボトルはステーブが運んでくれた。「ちょっと待って・・・」と言いながら荷物の点検をして、私もタクシーに乗り込んだ。フー。

タクシーは19時前にマリーナへ到着し、もちろんニールたちパイロットはまだ居なかったが、そこは勝手知ったるオブザーバーのジェニーはいるし、私たちも初めてではない。セーフティドアの暗証番号を“ピッ、ピッ”と押すとマリーナの中にずんずん入って行って、静かに停泊しているニールのボート“スバ”の前に荷物を置き、ニールの到着を待った。

Day	Time (m)	Time (m)	Time (m)	Time (m)	
1 Sa	0149 2.25 0726 5.23 1431 2.31 1957 5.40	9 Su	0086 6.31 0757 1.16 1253 5.55 2020 1.05	17 M	0223 2.00 0757 5.62 1508 1.82 2026 5.86
2 Sa	0312 2.19 0834 5.40 1549 2.06 2101 5.59	10 M	0104 6.28 0828 1.19 1319 6.50 2042 1.14	18 Tu	0050 1.63 0908 6.04 1621 1.35 2130 6.23
3 Su	0418 1.96 0926 5.78 1645 1.75 2150 5.81	11 Tu	0132 6.22 0859 1.32 1340 6.43 2122 1.29	19 W	0456 1.24 1021 6.46 1721 0.95 2221 6.56
4 M	0607 1.73 1010 6.02 1728 1.50 2231 6.00	12 W	0204 6.13 0930 1.51 1421 6.33 2133 1.50	20 Th	0555 0.95 1045 6.79 1618 0.67 2209 6.76
5 Tu	0548 1.55 1046 6.23 1805 1.34 2304 6.14	13 Th	0245 5.98 1005 1.78 1506 6.14 2232 1.73	21 F	0649 0.76 1130 7.00 1908 0.48 2352 6.84
6 W	0622 1.41 1120 6.32 1841 1.22 2337 6.24	14 F	0328 5.77 1053 1.97 1606 5.85 2328 1.97	22 Sa	0735 0.66 1212 7.09 1955 0.40
7 Th	0654 1.30 1152 6.49 1915 1.13	15 Sa	0452 5.52 1201 2.16 1728 5.60	23 Su	0034 6.81 0814 0.86 1251 7.06 2034 0.45
8 Fr	0006 6.30 0726 1.26 1220 6.55 1940 1.06	16 Su	0046 2.12 0822 5.41 1331 2.15 1901 5.57	24 M	0114 6.68 0848 0.80 1329 6.92 2109 0.67

潮汐表（ドーバー港）

潮汐表（ちょうせきひょう:干潮満潮の時刻と海面の高さが記してある表）によると8月3日、ドーバーの満潮時は21時50分になっている。つまり21時50分頃にスタートするのが良いわけで、ニールは乗船後の準備、スタート地点への移動などの時間を考慮して「19時集合」と言ったのだと思う。しかしニールがスバに到着するなり勝手知ったる私たちはサッサと準備を完了させた。そんなこんなでスバがドーバーマリーナを出港し、キンちゃんがチャネルグリースを塗ってシェークスピアビーチを泳ぎ始めたのは、満潮時より2時間早い19時48分だった。

スバをキンちゃん風に表現すると「ドンブラッコ船」である。船体は鋼鉄製で昨今主流のFRP（硬質プラスチック）製の船と比べるといかにもドッシリしているが、スピードは出ない。それでも波や風にはめっぽう強い。

いちおうクルーザーで船内にはキッチン、トイレ、寝室まで揃っている。冷蔵庫には食料もふんだんにあるし、飲料水もタップリある。まあボートピープルになるにはもってこいの船だ。そして、スイマーを伴走するには最も適した船とも言えるだろう。

スイマーは蚊帳の外



スタート直前のスナップ

イギリスの白夜は 20 時前にスタートしたキンちゃんを暖かく見守ってくれたが、21 時を過ぎると闇夜は音も無く忍び寄ってきた。満天の星空だ。このような夜は放射冷却で寒くなる。「夜は曇り空の方が良いのだがなあ・・・」、一人ポツリと呟いた。

案の定キンちゃんの泳ぎが変わる。これは冷水で泳ぐと出てくる持病の大腿部痛の泳ぎだ。これは波紋のように

初めはキンちゃんを知り、次に私を知り、徐々にニールやジェニーにまで知れ渡ることになる。そしてとうとう深夜 2 時 (4 日) に「足が痛い」と言ってきた。

船上のニールやジェニーは「イブプロフェン (鎮痛解熱剤) でも飲ませれば」と言ってくれたが、「なるべく薬には頼りたくない」と言うキンちゃんの言葉を思い出し、薬は与えないでいた。

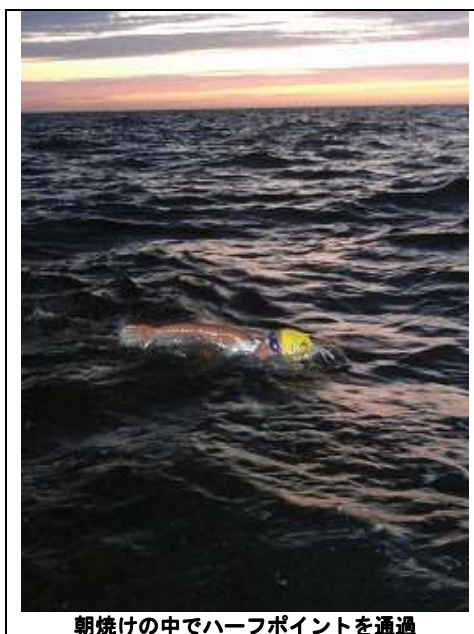
ちなみにドーバー泳では抜き打ちにドーピング検査がある。だが、イブプロフェン (日本名:ブルフェン) とミオナール (筋弛緩剤) はドーピングに引っかからない薬物で、日本の泳ぐドクター、O 先生から処方して頂いて手にしている。尚、この薬は日本の法律で医師の処方箋がないと手に入らない。しかしイギリスでは薬局で誰でも簡単に手に入る。

そんな時、フランスの方から小さな船の灯りがユラリユラリと揺れながらこちらに近付いてくるのが見えた。「何だろう?」と思って見ていると、それは 1-way を泳ぎ終えたアメリカのリレーチームがドーバーに帰る途中、私たちの船へエールを送るために立ち寄ってくれたのである。“ピー、ピーツ”と指笛を鳴らし、「イエイ、イエーイ!!」と、静まり返ったドーバーの海に打ち上げられた大きな花火のように賑やかになった。

それまで痛み、寒さ、眠さと戦っていたキンちゃんはビックリし、遅くなっていたストロークのピッチがいきなり元に戻った。しばし泳ぎの苦痛ストレスを忘れさせてくれたようだ。しかしその打ち上げ花火船も長く併走することもなく、エンジン音を上げると再びドーバーに向かって疾走して行った。

静寂な海が戻ってしばらくすると東の空が明るくなり始めた。気温は夜明けが最も低い。その中を再びストレスとの戦いに戻ったキンちゃんが泳いでいる。

朝 5 時。朝日と一緒に雲が出始めた。「何だよ、放射冷却の夜の後には曇りの昼間かよお。お日様の暖かい恩恵を受けられないじゃん。ついてないなあ・・・」と一人ポツリと呟いた。そんな中でようやくハーフポイントの通過を確認した。



朝焼けの中でハーフポイントを通過

ドーバー海峡の中央には国境と思われる灯標が国境に沿って約 5 マイル (約 9 km) 毎に設置されている。これを私たちは「ハーフポイント」と呼んでいる。これは航路標識にもなっていて、ドーバー海峡を航行する大型船舶はこのハーフポイントの右側通行となっている。したがってドーバー海峡を横断するスイマーは大型船が左右どちらから来るか見れば、フランス側にいるのかイギリス側にいるのか判断できる。

イギリスを泳ぎ始めてハーフポイント通過までが 9 時間。いつもなら 6 時間で通過し、約 14 時間で完泳しているのだ。今回はやけに遅い。1-way ならまだしも 2-way となると不安がよぎる。

それだからというわけでもないのだが、泳ぎ始めて 10 時間目の栄養補給でイブプロフェンとミオナールを飲ませた。

同じ不安をキンちゃんも感じ取ったのだろう。14 時間目の栄養補給でまだまだ遙か彼方のフランスを見てこう聞いてきた。

キン「あと何時間？」

石井「あと 5 時間だ」

GPS に到着地点として私はイギリスに最も近いグリ・ネ岬 (Cap Gris-Nez: 「白い鼻の岬」という意味) にセットしてある。現在のスピードが維持されているならば、グリ・ネ岬までは「残り 5 時間」と GPS は算出している。このような質問があるとき、私は正直に答える習性を持っている。

キン「1-way でいいよ。2-way は無理だ」

石井「駄目だ。折り返しなさい」

キン「お金がもったいないから 1-way でいいよ」

石井「アホ！ お金は 2-way 分を先払いしてある。出来るところまでで良いから泳ぎ続けなさい」

確かに 2-way は 1-way より 1,000 ポンド (約 20 万円) 余計に支払わなければならぬ。実際、2010 年と 2011 年のデポジット (頭金) を支払ったときに、今年の 2-way 分の料金も支払っていたのだ。

『せめて 20 時間は泳がせよう。待てよ、19 時間で折り返してたったの 1 時間で 1,000 ポンドは確かに高い。せめて 24 時間は泳がせよう』

キンちゃんではないが、『2-way』という考えはほとんどなく、『何処まで行けるか』ということが私も焦点になっていった。

ジェニー「今、何て話したの？」

オブザーバーとして、ジェニーは逐一ストーリー (進行記録) を記入していた。日本語がわからないので聞いてきたのだ。だからといって「お金がもったいないから 1-way でやめたがっている」とは言えない。

石井「ミュキは昨夜から足を痛がっていた。そして今までなら 14 時間くらいで完泳しているのだが、今日は 14 時間経ってもフランスまではまだ



こまめにストーリーを書き込むジェニー

遠い。だからミュキは『1-way でやめたい』と言ったんだ。しかし私は『駄目だ、折り返しなさい。少なくとも 24 時間は泳ぐんだ』と言った。何故ならばミュキはプールで最長 30 時間泳ぎ続けた経験があるのだが、海では 20 時間が最長なんだ。その記録を更新させたい。ミュキに自信をつけさせるためにね」と、お金のこと以外は正直に答えた。

ジェニーは私のしゃべったことをそのままニールに伝えた。するとニールがやって来て、

ニール「ミュキが 1-way で終わらせるのも 24 時間泳ぐことも、それはいくら水泳コーチであったとしてもイシイが決めるべきではない。決めるのはスイマーのミュキ自身だ。だからいくつかの選択肢を与えよう。一つはこのままフランスまで着いたらボートでドーバーまで引き返し、翌日もう一度フランスまで泳ぐんだ。これは 2-way ではなく 1-way が 2 回だが、これが一つの案。もう一つはこのままフランスまで着いたら少し休憩をして、それから泳げば良い。これも 2-way にはならないが、それでも良い。つまりいろいろな選択肢からミュキが選べば良いのだ」

船の中ではこんな会話をしているのに、当のキンちゃんは何も知らずに泳ぎ続けている。

グリ・ネ岬を船首に向かって 10 時の方向に見たときに、
石井「ヴィサンに着けるか？」
とニールに聞いた。
ニール「とんでもない。今からカレーの方まで流される！」
と怒鳴るように答えた。

ヴィサンはグリ・ネ岬に近い街で、だいたいのスイマーが到着する地点である。キンちゃんも何回かヴィサンに着いているし、わざわざヴィサンにビーチの砂を取りに行ったこともある。

もう GPS の目的地、グリ・ネ岬からは離れる一方なので、到着予想時間は当てにならない。それにしても毎回のことだがグリ・ネの沖合は荒れている。流れが速く、波もあるので「難所」と言われている場所だ。波高は最大で 2m くらいまで成長したが、ラフウォーター好きのキンちゃんにとっては心配がない。しかしニールの言ったとおり、真横に流れる潮の速さには驚いた。船首に向かって 10 時の方向に時速 8 km くらいの速さで流されて行く。ほどなくカレーの街のシンボル“時計台”も見えてきた。



カレーはドーバーと結ぶフェリーの港町である。イギリスとフランスを結ぶ海上交通の拠点として、フェリーでドーバー海峡を渡ったことがある人は、おそらく全員がこの時計台を見ているはず。

確実に完泳時間が 18 時間を大幅に切れることが誰も疑わなくなるくらいまでフランスに近付いた頃、ニールが口を開いた。
ニール「イシイ、ミュキをフランスで休ませるな。すぐに折り返せば天気は良いし、次のイギリスに向かう潮に乗って行ける。すぐに折り返させろ！」

『ハアアアアアッ、決定権はスイマーにあるんじゃないのお〜〜〜？？？』

もちろんニールに悪気はない。伴走するボートの舵輪を握る責任者として、何とかしてキンちゃんを成功させたいという思いと、天候や潮などを総合的に判断した結果から出た言葉なのだと思うが、あまりにも先に言った言葉とはかけ離れているので、私としては啞然としてしまったのである。

まあ潮のお陰かどうかは不明だが、GPSの予想、19時間より1時間以上早い17時間20分（公式記録:17時間18分27秒）、イギリス時間13時06分（フランスとの時差1時間）でカレーに近いビーチをキンちゃんは折り返した。誰が決定権を持っているかなんて知る由もないキンちゃんは、今度はイギリスに向かって泳ぎ始めたのだ。

ちなみにフランスのビーチは遠浅で、喫水（きつすい:水に浮いた船の水面から船底までの垂直距離）の関係上ボートはビーチに近付けない。

ニール「イシイ、またミュキと一緒に行くか？」

石井「今回は腰痛（ドーバーに行く直前に腰を痛めた）で泳げない」

まあ普通ならゴムボートなどを出してスタッフがビーチまで伴走するのだが、ニールはそれが面倒なのであろう。

石井「ジェニー、いつもならね、私がミュキを伴泳してビーチまで行くんだ。

そして二人でフランスのビーチに立ったとき、抱き合って喜ぶんだよ」

ジェニー「へえー、いいなあ〜・・・」

ジェニーは旦那さんのスティーブが完泳して自分と抱き合って喜ぶシーンを想像したに違いない。

今回はクルーのアドリアンがキンちゃんの伴泳をして戻って来た。

折り返し直後、

ニール「イシイ、補給を次からダブルマキシムにしろ。その次はトリプルマキシムだ。

他は全てダブルマキシムにしておけ！」

と口から泡を噴きながらしゃべった。キンちゃんの泳ぐ決定権を自分にしてしまった責任感からであろう。しかしマキシムはすでに30時間分作ってあり、これから飲むマキシムはすでにプラティパスに入って日本製の使い捨てカイロまで張って暖めてある。それを今から作り直すのは厄介だ。

ニール「夜間の補給は40分毎ではなく、30分毎にしろ！」

とまで言ってきた。これにカチンときた私は

石井「夜間泳の補給間隔についてはミュキと話している。そして、その決定権はスイマーのミュキにある」

と言ってやった。

その分、難解なマキシムの作り直しに私は四苦八苦するのだが……。もちろんグルコースもマキシムの量と平行して濃度を濃くしなければならなかった。



カモメも見物に来た栄養補給

そのトリプルマキシムをキンちゃんが飲んだとき、それは私も見ていたのだが、キンちゃんは確かに変な顔をした。まあ時折見せる表情なので私はあまり気にもしなかったが、ニールはものすごく気にして
ニール「イシイ、どうしてミユキはあんな顔をしたんだ？」
石井「トリプルマキシムが不味かったんじゃないの？」
と言ってやった。ちなみに後からキンちゃんに聞くと、「別に、美味しかったよ」と答えている。まあニールの取り越し苦労と言うものだが、
ニール「次からはノーマルマキシムで良い」と言ってきた。

石井『エエーッ、もう大半をダブルマキシムにしちゃったじゃないか！？』

イギリスを泳ぎ始めて 24 時間（フランスを折り返して約 6 時間 40 分後）が経過した頃、

キン「あと何時間？」

石井「あと 8 時間」

GPS は 2002 年に“リレーの 2-way”で成功させたゴール地点、ドーバーの 3 本アンテナの下にある“ホワイトクリフ（白い壁:ドーバーの名所）”の下のビーチをポイントしてある。そこまでの完泳予想時間が 8 時間なのだ。

キン「もうやめたい……」

石井「駄目だ。さっきニールは『これから天気も良くなり、波も無いし、潮もイギリスに向かう潮に乗れる』と言ったんだ。見てごらん、天気は良いし、波も無いだろう。もう少し続けるんだ。イギリスが見えたらまた元気になるから」



天気と波はニールの予想通りだったが、潮はニールの言うほど速くはない。何故ならばキンちゃんはフランスを折り返してすでに 6 時間以上泳ぎ続けているのに、ハーフポイントはまだ先だった。

ジェニー「今、何て話したの？」

石井「ミュキが泳ぎだして 24 時間経ったでしょう。それでミュキは『もうやめたい』と言っている。でも天気が良くなったので、『駄目だ』と私は答えたんだ。ミュキは恐れている。これから夜のやってくることを。夜の寒さはミュキの大腿部痛の原因になっているから……」

ジェニー「……………」



ドーバー海峡の夕暮れ

フランスを折り返したときは晴れていたのに再び曇り空になると、ドーバー海峡は深い闇夜に包まれていった。

すると一通のメールが私のケータイに飛び込んできた。ドーバーのビーチで一緒に練習していた水泳仲間からである。内容はキンちゃんへの応援メッセージだが、『エーッ、まだハーフポイントまで来ていないんだがなあ〜……』と思っていた。

ところがこの応援メッセージはそれから 5 分毎くらいにジャンジャン入ってくる。みんなキンちゃんを応援しているのだ。

21 時 38 分頃ハーフポイント通過。泳ぎだしてから 25 時間 50 分経過。折り返してから 8 時間 30 分を要している。まあ行きよりも 30 分は早い、決してニールの予想ほど速い潮ではないし、キンちゃんのペースがそれほど遅いわけでもない。

それからもひっきりなしにケータイには応援メッセージのメールが飛び込んでくる。それは私のケータイばかりではなく、ニールのケータイにも同様に飛び込んできていた。

ニール「イシイ、イギリスではプレスも含めて 500 人くらいの方がミュキを迎えに出るらしい」

『ヒェ〜〜、そいつは簡単にやめさせるわけにはいかなくなったなあ〜〜……』

そんなことは何も知らないキンちゃんは、ひたすら大腿部痛と戦いながら泳いでいる。それは誰しもが“苦痛の中で泳いでいる”と理解できる泳ぎになっていた。

泳ぎだしてから 27 時間経過。
キン「あと何時間？」

GPS では“残り 4 時間 30 分”
となっていた。先ほど「あと 8
時間」と答えてから 3 時間経過
したので、まあ少しは潮に乗れ
て進んだのであろう。だが、
石井「あと 5 時間」

と答えておいた。何故ならばス
イマーにとって残り時間が短
縮されたなら問題はないが、延
長されたときほどの苦痛はない。

したがって先ほど答えた「あと 8 時間」から算出した時間を答えたのだ。
するとキンちゃんが怒り始めた。

キン「さっき『残り 8 時間』と言ったのだから、あと 2 時間のはずじゃない！」

石井「アホ！ さっき『残り 8 時間』と答えてからまだ 3 時間しか経っていない。『残り 5 時間』で間違いない！」

ジェニー「今、何て言ったの？」

石井「ミュキは『あと 2 時間で着くはずだ』と言ってきた。だから『違う、残り 5 時間だ』と答えた。すでにミュキの思考回路は疲労と苦痛と寒さで壊れかけている」



夜間泳は寒い、眠い、苦痛など
いろいろなストレスがスイマーを襲う。

残り 5 マイル (約 9 km)。すでにいつも練習していた淡島～大瀬崎 1-way の距離まで来ている。もうここで終わらせたくはなかった。

それから「もう泳げん!」、「もうやめる!」と言うキンちゃんに対して、「駄目だ!」、「もっと泳げ!」と言う私との口論が、30分に1回くらいの割合で始まった。

日は越して 8 月 5 日 (水) になった。キンちゃんの「もう泳げん!」、「もうやめる!」の声は雄叫びから悲鳴に変わって泣き始めた。その大きな泣き声は夜のドーバー海峡に響き渡った。

ニールが出てきて「やめる決定権はスイマーにある」と言ったとき、この遠泳は終わった。イギリス時間 0 時 30 分。フランスを折り返して 11 時間 22 分。泳ぎ始めて 28 時間 42 分泳いだ。その時点でイギリスまで 4 マイル (約 7.4 km)、“残り 4 時間”と GPS には記してあった。

実際にキンちゃんがスバに収容されたのは風波の影響もあってこずり、29時間以上ドーバーの海に入っていたことになる。公式記録では“29時間30分”となっているが、ジェニーが何処でストップウォッチを止めたのかは、私には定かではない。

スバに上がって横になったキンちゃんの身体は芯まで冷え切っており、全力を尽くした結果なのか、少し小さくなったように私には思えた。同時に私も全力を尽くした充足感があった。それからスバはドーバーマリーナへ向かったが、そこからの記憶がハッキリ覚えていない。ただスバがマリーナに到着するまでの時間がやけに長く感じたのと、そんな時間（深夜か朝かわからない）にもかかわらずスティーブが迎えに来てくれたこと。マリーナへタクシーを呼んでもらってスティーブ、ジェニー、キンちゃん、私の4人で帰ったこと。帰るなりキンちゃんは入浴して、それからベッドに潜り込んだときは窓の外が白みかけていたことなどがポツリ、ポツリと断片的に記憶にある。



スバのパイロット、ニールと

何時間寝たかは定かではないが、朝9時には起床して朝食を取った。そして11時にはビーチへ向かったのである。何故ならば午前中ならビーチで練習している仲間がいる。その仲間にキンちゃんは会いたかったのである。「あいたた」、「あいたた」と手で身体を擦りながらゆっくりとビーチへ行った。

ビーチの仲間はすでにみんなキンちゃんのことを知っており、「残念だったね」なんて言うものは一人もおらず、「よく泳いだね」とか「考えられない」とか「伝説の人になったよ」とか「ミュキは我々の誇りだ」とか、「サムライヒロイン」、「大和魂を持った女性」などと賞賛の声ばかりだった。

ビーチの仲間はすでにみんなキンちゃんのことを知っており、「残念だったね」なんて言うものは一人もおらず、「よく泳いだね」とか「考えられない」とか「伝説の人になったよ」とか「ミュキは我々の誇りだ」とか、「サムライヒロイン」、「大和魂を持った女性」などと賞賛の声ばかりだった。

これでドーバーの報告はそろそろ終えようと思うが、本当は登場させたかったキャラクターがたくさんいる。よく私たちの面倒をみてくれ、可愛がってくれたバリーとアイリーン夫妻。今年新たな友達になったスウェーデン人のフレドリック。毎年会うライバル、アメリカ人のマーシー。最近は選手を連れて来るようになったロシアのパーヴェル。日本にも仕事でよくやって来るイギリス人のジェームス。ボランティアのミッシェル、ローラ、エマ、クリフ、リック、エトセトラ、エトセトラ…。みんな陽気で気の良い仲間たちだ。

毎年のことだが私たちの帰国が近付くと、ビーチにいる水泳仲間やボランティアたちから「No go Home. (帰らないで)」と言われる。「9月のシーズンが終わるまでドーバーにいろ」と言うのだ。

嬉しい言葉だし、ドーバーのビーチで皆と過ごしているときは楽しい。出来るものなら私達もそう願いたい、帰らなければならぬ。

仕事と家庭が待っているのだ。再びドーバーに来るためには一生懸命に稼がなければならない。もちろん練習もね。

「また来年」と言葉を残して、スーツケースには入りきれないほどの思い出を持って帰るのだ。



キンちゃん、ドーバー泳の仲間とテレビ出演

この報告書を作っている秋口にドーバーからいろいろ情報が入る。ちなみに今年（2009年）9月20日、リサ・カミンズ（Lisa Cummins）は、アイルランド人初の2-way チャネルスイマー（ドーバー海峡完泳者）になった。時間は35時間20分、史上20人目の記録である。キンちゃんもやはり同じ女性として、35時間くらいは我慢して泳げるようになっておかなければならないのかもしれない。

<参考資料>（2009年までの記録から）

キャプテン・マシュー・ウェブ（Captain Matthew Webb:イギリス）が1875年8月24～25日、21時間45分で何の助けも無しに初めてドーバー海峡を泳ぎ切った。つまり史上初のチャネルスイマーが誕生したわけだが、それから今年まで134年の流れる年月の中で、約7,300名のスイマーがウェブと同じ方法でチャレンジし、今年ようやく成功者が1,000名を越した。

そして同じ方法で2-wayを成功させた初のチャネルスイマーはアントニオ・アバートンボ（Antonio Abertondo:アルゼンチン）で1961年、43時間10分（最遅）。最速はフィリップ・ルッシ（Philip Rush:ニュージーランド）で1987年、16時間10分。女性の最速はスージー・マロニー（Susie Maroney:オーストラリア）で1991年、17時間14分。ちなみにフィリップは3-wayでも最速で、同じく1987年に28時間21分で完泳させている。

3-way 第 1 号はジョン・エリクソン (John Erikson:アメリカ) で 1981 年、38 時間 27 分。女性第 1 号はアリソン・ストリーター (Alison Streeter イギリス) で 1990 年、34 時間 40 分。

アリソンはこれで“MBE (Member of the British Empire:大英帝国勲章「団員」)”の称号を受勲。更にこの 3-way (1 回) の他に 2-way (3 回) を含め、合計 43 回もドーバー海峡を泳いで横断し、「世界最多ドーバー完泳者」としてギネスブックにも紹介されている。ちなみに彼女の母親はこの報告にも出てくるドーバー泳の世話役フリーダで、弟がキンちゃんのボートパイロットのニール。



フランスに向かって力泳するキンちゃん
マシュー・ウェップと同じ方法で泳ぐ

話は戻って 1-way の最速はペーター・ストイチョフ (Petar Stoychev:ブルガリア) で 2007 年、6 時間 57 分 50 秒。最遅はヘンリー・サリバン (Henry Sullivan:アメリカ) で 1923 年、26 時間 50 分。

まあ上には上があると言うか・・・、速いのも遅いのも長いのも別々な意味で「スゴいなあ〜」と思ってしまう私だが、何とかしてキンちゃんを史上 21 人目、日本人初の 2-way チャネルスイマーにしたいと願っている。“Queen of the English Channel in Japan”なのだから。

ドーバー泳の感覚と名言

ドーバー海峡の最短距離はドーバー (イギリス) とグリ・ネ岬 (フランス) 間で約 34km。日本 (東京) で言うと都心を巡る電車“山手線”の一周が 34.5km。まあ山手線の線路を真っ直ぐに伸ばすとお隣の国に行ってしまう。この距離が長い、短いのかの感覚は人それぞれだろうが、潮流が速いので真っ直ぐには行けない。

また水温が 16℃程度と泳ぐには冷たい。まあサウナの水風呂が 18℃暗いらしいから、「その水温で潮に揺られながら山手線一周を泳ぐ」と言えば感覚的には想像してもらえらるだろうか？

まあキンちゃんの場合は 2-way だから単純にその 2 倍なのだが、史上初の公認チャネルスイマー、マシュー・ウェップは次のような名言を残している。

“ Nothing great is easy.” 「偉大なことで簡単なものは何もない」

< ドーバー 泳 の 詳 細 >

日付：2009年 8月 3日（月）～ 5日（水）

場所：ドーバー海峡<イギリス～フランス間>（最短距離 34km）

泳者：Miyuki Fujita キンちゃん

方法：2-way solo swim（往復独泳）

出発：Shakespeare Cliff（イギリス）

折返：Calais（フランス）

結果：1st leg: 19:48⇒翌 13:08 17時間 20分（公式: 17時間 18分 27秒）

2nd leg: 13:08⇒翌 00:30 11時間 22分（公式: 12時間 12分）リタイヤ

合計=28時間 42分（公式: 29時間 30分）

概況：天気 晴れたり曇ったり

視界 10～15海里（20～30km）

風向 前半:南、南東、東 後半:南、西 後半:北東、東

風速 1.1～10.5m/sec

気温 16.7～22.6℃

水温 16.0～18.0℃

波高 1.0～2.0m

ピッチ 58～67回/分

補給 炭水化物+果糖+茶類=300ml/40分毎

流向 南西および北東方向へ6時間毎に転流（潮流）

流速 0.0～4.3kn（0.0～8.0km/h）

潮汐：ドーバー港

8/3	月齢 12.4		潮名 中潮	
	干潮 04:18	1.96m	満潮 09:26	5.76m
	干潮 16:45	1.75m	満潮 21:50	5.81m
8/4	月齢 13.4		潮名 中潮	
	干潮 05:07	1.73m	満潮 10:10	6.02m
	干潮 17:28	1.50m	満潮 22:31	6.00m
8/5	月齢 14.4		潮名 大潮	
	満潮 05:48	1.55m	干潮 10:46	6.23m
	満潮 18:06	1.34m	干潮 23:04	6.14m

船名：SUVA

パイロット：Neil Streeter

クルー：Adrian Piddock

オブザーバー：Jenni Payne（他男性1名）

コーチ：Haruyuki Ishii

津軽に吹く山背

やませ（山背）とは、春から秋に、オホーツク海気団より吹く冷たく湿った北東風または東風（こち）のこと。特に梅雨明け後に吹く冷気を言うことが多い。やませは、北海道・東北地方・関東地方の太平洋側に吹き付け、海上と沿岸付近、海に面した平野に濃霧を発生させる。やませが長く吹くと冷害の原因となる。なお、オホーツク海気団と太平洋高気圧がせめぎあって発生する梅雨が遷延しても冷害となる。

インターネットフリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』より

藤田美幸（キンちゃん）津軽海峡横断泳の実績

2005年8月30日	津軽海峡 1-way(青:下北佐井⇒北:函館戸井)	11時間36分
2006年8月31日～9月04日	津軽海峡 3-way	37時間24分
1 st leg	2006年8月31日 青森津軽小泊⇒北海道渡島福島	11時間43分
2 nd leg	2006年9月02日 北海道渡島福島⇒青森下北佐井	15時間28分
3 rd leg	2006年9月04日 青森下北佐井⇒北海道函館汐首	10時間13分
2009年9月02日	津軽海峡縦横断 1-way (青:佐井⇒)	16時間45分 (リタイヤ)

津軽海峡海流概況図



津軽海峡の海流は日本海から太平洋に向かって流れている。この海流に乗って、日本海から太平洋へ（縦断）+青森から北海道へ（横断）=120km泳ぐ計画だ。

津軽海峡、横断泳ラッシュ

首都圏在住者の水泳グループ「海王（うみおう）」の男女7人が26日、中泊町・権現崎（小泊岬）から水泳リレーで約9時間かけて北海道・白神岬に到達し、津軽海峡横断に成功した。女性ながら過去4度も単独横断に成功している藤田美幸さん（43）＝愛知県＝も、27日から9月1日の間に再挑戦を予定。日本テレビの「24時間テレビ 32『愛は地球を救う』」の遠泳チームも8月30日、横断に挑む。わずか1週間に3チーム・個人が海峡横断のために中泊町小泊地区に集結するという、“横断泳”ラッシュ現象が起きている。



海峡横断に成功した「海王」メンバーは本間素子さん（34）、磯崎祐子さん（44）、桜井智和さん（33）、福島香織さん（35）、小坂橋まみさん（32）、西郡美樹さん（29）、宮下聖さん（28）の7人で、秋田県在住の宮下さんを除いていずれも東京都と神奈川県在住の会社員。本間さんと西郡さんは英仏間のドーバー海峡、本間さん、桜井さん、福島さんは駿河湾横断の経験がある。

津軽海峡横断には竜飛崎－白神岬や大間崎－汐首岬が距離的には有利だが、潮の流れが速く、横断泳には権現崎－白神岬が向いているという。7人は26日午前4時33分、権現崎をスタート。漁船の伴走を受けながら30～15分ずつ交代で泳ぎ、午後1時28分、8時間55分で白神岬に到着した。潮に流されたため、四十二、三キロを泳いだ計算になるという。

リーダー格の本間さんは「初めは順調すぎるくらい。時間とともに潮目がどんどん変化していき、大変だったが、横断泳の楽しさも実感した」と笑顔で話していた。

津軽海峡は今年、なぜか横断泳ラッシュ。ドーバー海峡を日本人として最多の6度横断しているベテラン藤田さんは、権現崎から北海道・恵山岬を目指し、海峡横断にとどまらず、日本海から太平洋へ約120キロの“縦横断泳”を計画している。また「24時間テレビ」チームは盲目の高校生スイマー立木早絵さんを中心に五輪金メダリストの鈴木大地さんが監督、歌手・錦野旦さんがキャプテンを務め、中泊町・小泊マリンパークから北海道福島町まで、昨年、途中で断念した海峡横断に再挑戦する。

キンちゃんが行く（津軽編）

藤田美幸

多分、この函館市浜町（旧：戸井）を訪れて5年の月日が流れたと思う。まあ毎年訪れても充実していたが、今年も毎日が凄く充実し、かつ毎日がとても忙しかった。ただ例年では天候が悪く、泳げない年の方が多かったような気もする。それでもここ浜町に来ると、“第二の故郷”のような気持ちになって落ち着くのだ。泳げた、泳げなかったにかかわらず、思い出を書くといくらでも出てくるが、紙面の関係上、ここでは今年のみ絞って紹介していくことにする。

不安な日々

8月25日函館到着。“夕方”と言っても、早寝早起きの仕事をしている私的には夜だが、安宅家（船頭さんの家）に挨拶がてら立ち寄ると、晩御飯が出された。お腹が空いている私たちはばくついたよ。

安宅さんの奥様は料理がとても上手。何品も出てくる料理の中には食べたことがないものもたくさんある。するといつも私は「これ何ですか？」と聞いている始末。そして「へえー」と思いもよらない料理に感動する。

話しも明日、青森移動でも良いように「早く泳ぎたい」ことを伝えたが、どうも悪天候ばかりが続いているようだった。

泳ぐ期間は8月27日から9月1日までだが、その中で8月29日から31日は、「24時間テレビ」の「津軽海峡横断リレー」のサポートに行くことになっていた。つまり泳げるチャンスは8月27、28日、9月1日の3日間しかない。しかし前半の27、28日は悪天候で泳げずじまい。残るチャンスは9月1日しかない。

ところで私の母親は毎日何回も電話をよこす。この日も朝電話が入るはずなのに掛かってこず、主人に電話すると救急車で母親を病院へ運ぶ途中とか！？「何があったんだろう」とパートさんに電話すると、どうも常用薬の飲み過ぎらしい。たまに飲み過ぎるが、かなりの量を間違えて飲んだみたいで、点滴などをして主人と家に戻ったみたいだが、私の留守中にこんなことがあると心配である。



遠泳のスタートを電話連絡するキンちゃん

いつ船が出るのか分からずの天候待ち。母親が救急車で病院に運ばれたという連絡。加えて台風が来ているという情報もあり、トリプルパンチというか、29日は重い気持ちを引きずりながら青森、小泊への移動となった。

モヤモヤ

30日の24時間テレビの津軽海峡横断リレーは無事に成功し、翌31日に函館へ戻ると台風は小笠原付近。昼頃から東京を通過するとテレビは言っていた。

9月1日の朝、安宅さんに連絡すると「今日は船が出ない」と言われ、『またもや泳げなく帰るのか！』の予想が『また今年も泳げないんだなあ〜』の現実になり、『予定通り3日に帰るもんだ』と思っていた。何故なら飛行機の予約がしてあるからだ。石井コーチは「台風の足が速いからもう一日帰るのを遅らせるか」と言うが、毎日台風と母親のことで頭が一杯になっていた私は本当に泳げるかどうか分からないし、「台風のうねりが残るのでは？」と、「帰る」の一点張りだった。



海を泳げない日はプールで練習

宿泊場所の“ムーイ”に戻ってから昼ご飯を食べ、あまり寝ていなかったで休憩していると、安宅さんから「晩御飯を食べにおいで」と電話が入った。重い腰を上げながら安宅さんの家に行く。ここでは安宅さんも安宅さんの奥さんもコーチの意見同様、「天候は回復する。もう一日帰る日を延ばさないか」と言われた。「台風は速度が速く、函館は影響がない」とも

言っていたが、まさか安宅さんの方からこんな言葉が出るとは予想もできず、ただまだ半信半疑の私は思わず「私の頭は泳ぐことにまだ切り替えがつかず、考えます。」と言い残し、ムーイへと戻った。

スッキリ

次の日(2日)の朝9時頃だったか？ 安宅さんから再び電話が入り、「船は出られるが、どうする？」と聞かれると、モヤモヤした気持ちが吹っ切れ、「行きます！」と返事をした。それからは計画書や飛行機の変更、海上保安部への連絡など、バタバタ状態であらゆる手続きをクリアにし、12時に浜町の港を出て4時間ぐらいかけて青森の小泊に移動した。途中、南の風で波を見ながら、

景色を見ながらの船の移動は快適だったが、着いてからも準備でバタバタ状態は続いていた。

やっとここまできたが、まだ明日になれば天候がどう変化するかわからない。不安を抱えながら眠れずにいると、隣ではコーチのいびきがうるさい。3時港集合だったが、2時でもいい感じだよ。いや「一睡も出来ないならもっと早くてもいい感じかな？ “1時スタート”でも構わない」と思ったぐらいだ。どうせ眠れないんだから。

しかし予定通り 3 時港集合。東奥日報の記者から取材を受けたあと、スタート地点の権現崎へ向かった。

スタート

権現崎は東の風であった。船の明かりにイカがよってくるのがわかる。とてもかわいらしい。魚は見えなかったな～。ゴーグルを民宿で洗ったはずだが、まだ曇り止めが残っている感じで安宅さんに「お水ありますか？」と聞いたところ、海水を汲んでくれ、手を入れると温かい。『温泉だ』と思いき水温を聞くと“25℃”だった。やはり異常気象である。暗いせいもあり、権現崎が岩場だったせいもあって、船からスタートした。



ライト

ドーバー以来、一ヶ月ぶりに海を泳ぐ。身体の故障や仕事でプール練習も“スピード練習は入れず”というより、“スピードが出ない”のでロング練習と仕事に追われていた。

津軽の海では身体が軽く、信じられないぐらい快調に泳いでいた。ちょうど二回目の補給の時、辺りが明るくなったので頭に付いていたフラッシュライトを外し、ロープに付けようとしたら、海水に沈んで行くのが分かった。『落とすてたまるか!』と、三回ぐらい拾い損なったが“四度目の正直”拾うことが出来た。苦しかった。なんせ私の身体は脂肪が多く浮輪なのだ。これを沈めるのは至難の技であった。まあ、拾えたからラッキー！

ゴーグル

安宅さんが「明日は風だよ」と言った通り、スタートから何時間だろうか？ 風は続いた。昨日船から見た波を思い出しながら泳ぐ。

急にゴーグルが気になりだした。前からの波や横波のせいか、海水が少しずつ入ってきてだし、それが両方入るようになり、何回もゴーグルをかけ直していたら、今度は曇り止めが取れ、ゴーグルをかけても曇って何も見えなくなり、コーチに曇り止めを頼んだが、聞こえているのかいないのか、一向に素振りなし。「曇っちゃって船が見えないよ！」とまた叫ぶと、次の栄養補給の時に交換しようとしていたらしく、新しいゴーグルと交換してくれた。

文句が多い私は「曇り止めてって言ったじゃん！」と怒鳴ったが、新しいゴーグルに替えると良く見える。『この違いは何だろう？』と思うぐらいによく見えた。「コーチ、よく見える。かっこよく見える」と冗談を言い始めた。どちらかと言えば、お喋りな私は冗談を言いながら遠泳をするのが好きなのである。

岡崎のヤマナミさんへゴーグルを買いに行ったところ、私がいつも使うゴーグルが売ってなく、今はプールでの競泳用の小さなゴーグルばかりであった。目が大きな私にとって、小さなゴーグルはストレスが溜まってしまいうし、目が入っても開けられない。だから行きに東京（上野:アメ横）に寄り、購入したのである。

荒波

急に風が強くなり、東の風が風速 13m までになり、波高 2.5m。前から横から後ろから、も一無茶苦茶な波に襲われた。船は右左に揺れ、操船に難儀している間に私は船の前方を泳ぐことになり、まるで私が船を伴走しているみたいであった。

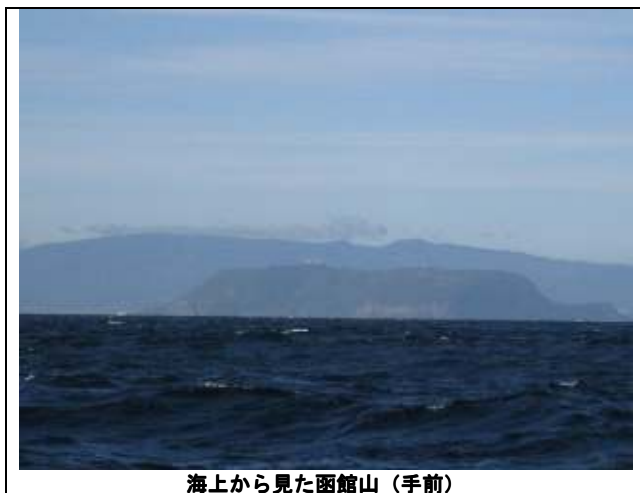
呼吸をしたときに船がどちらに向いているか確認しながら、それでも方向を間違えて泳いでいると、安宅さんが手招きで教えてくれたのがとても役にたった。

確か 4 時間ぐらいかかった所だったか？ 荒波が大好きな私は楽しくて仕方がない。途中ゴーグルが擦れたりして何回も直したよ。でもこの荒波で中止にしたくない。船に上がらせられるといけないので、一生懸命船の前方を泳ぎ、『追い付いてくるな！』という気持ちで泳いでいた。



船では「中止にするか！」という話しが出ていたらしいが、こんなに楽しい波で泳げるのは津軽しかないから、『お願いだからもっと泳がせて欲しい』という気持ちで一杯だった。どれだけ続いたかは分からないが、急に風になってしまった。潮が変わったのであろう。この時に時速 12km 出ていたらしい。

函館山



海上から見た函館山（手前）

風になった。さっきまでの荒波が信じられないぐらいである。多分『本流に乗った』と確信しながら泳ぐ。何処を泳いでいるかは全く分からないが、いつもの練習している淡島から大瀬崎を意識しながら泳いだ。

10 時間は“あっ”という間に過ぎたが、頭にインプットしていた函館山は一向に近づかない。心細くなってきた。私の頭に入れてあ

る 2005 年と 2006 年の佐井（青森下北半島）から浜町（北海道函館市）まで泳いだコースが 10 時間泳いで程遠いのである。『後 2 時間ぐらい泳げば函館山が見えるだろう』と期待したが、全然見えない。一瞬『大きな函館山が見えた』と思ったが、勘違いした。

全く近づかない函館山。3 時間は動かず、段々と東の風が強まり、辺りは暗くなってきた。逆潮に向かい波、船から離れる。どちらに進んだら良いか分からない。

と、「前方、一番左のイカ釣船（集魚灯で明るい）を目標せ」と指示が出る。だが波でなかなか前が見えない。風で船の音が聞き辛い。「後 4 時間泳げ」と聞こえた。「コーチ、進んでないよ。こんなに荒れていて、もう無理だよ」と私は諦めていた。ドーバーで 29 時間泳いだ人間がギブアップしてしまった。恥ずかしい話しであるが、津軽がこんなに大変だとは、甘く見すぎたよ。心を入れ替え出直してきたいと思った。

船に上がってからは、戸井港まで 2 時間ぐらいかかったらろうか？ 熟睡してしまい、港では北海道新聞の記者、石井さんから取材を受けた。「もう 22 時を回っていたのに。待っていてくれて有難う」

「藤田さん、家で早くお風呂入りなさい」の安宅さんの優しい言葉に甘え、お風呂に入り、お母さんの美味しい料理をいただいた。スゴク美味しかった。

今年は無泳出来なかったが、今回泳いで感覚が掴め、そしてドーバーよりも面白く楽しい波だと感じた。この海はスリルがある。そして人間味がある。

もうここ戸井には何回足を運んだことだろう。皆さんはとても親切で優しく、いい人ばかりにめぐり合えた。いろいろとお世話になり、有難うございました。

権現崎からスタートし、本流に乗るまで 5 時間、本流に乗って函館山まで 5 時間、函館山から戸井まで 5 時間というコース設定をしていたが、そうは間屋が卸さないのが現実で、だからこそ自然が物語ると感じた一日だった。

— 津軽海峡 —



<<過去のソロスイマーたち>>

中島 正一	1967 年	1-way	(記録不明)
スティーブン・ミュナトネス (米)	1990 年	2-way	12 時間 52 分
ディビッド・ユドビン (米)	1990 年	1-way	11 時間 54 分
尾迫 千恵子	1994 年	1-way	12 時間 28 分
五十嵐 憲	1999 年	1-way	11 時間 30 分

— 津軽海峡 —

キンちゃんのデータ（航跡）



3-way は左から 1st leg 2nd leg 3rd leg と続いている (2006 年)

右の細い線は 2005 年の 1-way

函館山の南で線が途切れているものが今年のもの (2009 年)

津軽の神様 VS 凸凹コンビ

石井晴幸

この企画を立案したのは2007年だった。2006年のときに3-way（青森:津軽半島小泊⇒北海道:松前半島福島⇒青森:下北半島佐井⇒北海道:亀田半島汐首）を泳いだのがきっかけで、津軽海峡を青森から北海道へという横断にとどまらず、日本海から太平洋へと縦断も含めた壮大な企画だった。総計距離は120km。これをソロ（独泳）で泳ぐ。

この三桁の距離が数値は以前からキンちゃんに泳がせたかったもので、1993年に私は四国（高知）の足摺岬から室戸岬まで120kmを独泳で成功させたことがある。したがって無理とも思わないし、必ず成功させる自信はあった。

しかし「嵐を呼ぶ女」のキンちゃんと「災いを呼ぶ男」の私という凸凹コンビが行うのだから津軽の神様はなかなか微笑んでくれなかった。天気が悪いのである。年に2回泳ぎに行き、2回とも天候が悪いといささか腹が立つ。決して日程も「○月△日」というようなピンポイントではない。「●月▲日から■日までの天候の良い日」と、小潮期の5日間くらいで余裕を持たせているが、天候は悪く、なかなか泳がせてもらえなかった。

いい加減キンちゃんも私も“諦めムード”というか、「今年で泳げなかったらもう津軽は諦めよう」と考えていた。



日テレ「24時間テレビ」、「津軽海峡横断リレー リベンジ！」

8月24日（月）函館着。泳ぐ期間は27日（木）から9月1日（火）まで。ただ8月29日（土）から31日（月）までは日本テレビ放送網で放映される「24時間テレビ」（30日放送）、「津軽海峡横断リレー リベンジ！」の企画が入っているため使えない。我々としてはこの企画の前に泳ぎ終わっていたかった。しかし27、28日と風が強く、

泳ぐことは出来なかった。

データ上では29日が最も良い日なのだがこの日も風が強く、テレビ局の方も予定していたリハーサルの試泳が出来なかったようだ。

ところが30日当日は絶好の遠泳日和で、まあ語ればいろいろ出てくるのだが、結果的には“奇跡”と言っても良いような大成功だった。

ただこの日台風11号は午前3時に父島の北東約380kmにあつて、北西へ毎時35kmで進行中だった。そして午前6時には八丈島の南東約490kmにあつて、翌31日午後3時には房総半島に上陸し、北海道方面へと北上していた。

つまり31日に東京へ帰るテレビ局の人たちは、バッタリと東京上空付近でこの台風11号と遭遇しているのだ。お疲れ様。

我々は函館（戸井）に戻ったが、台風11号は急速に速度を上げて北上して来たので、9月1日、すなわち日程最終日のトライは不可能になった。

「今年もまた泳げずに帰るのか……」という暗い気持ちがキンちゃんと私を包んだ。

しかし思いのほか台風11号は足早に過ぎ去って行ったので、翌日は台風一過になると予想が出来た。そこでキンちゃんに聞いた。

石井「滞在日を1日延ばせば泳げる可能性は高いよ」

キン「……………」

どうもキンちゃんは浮かない表情だ。

今回の船頭さんである安宅さんのお宅に伺って意見を求めた。

安宅「ああ、2日の天気なら大丈夫だよ」

この言葉でキンちゃんのご機嫌が直った。

速攻で今日(1日)の午前中、海上保安部など関係各所に連絡を取り、帰りの飛行機の予約変更、延泊手続きなどを手早く行い、午後に第61栄幸丸(4.9ト)はスタート地点である小泊へ向かって戸井港を出港したのである。

小泊港に面した民宿「柴崎」に到着するや否やキンちゃんは栄養補給品作りに専念し、外では安宅さんご兄弟が「遠泳中」の横断幕を第61栄幸丸に張るなどの準備が進められていた。否が応でも緊張というか、何とも言えない雰囲気になり、身震いがする。明日は津軽の神様が微笑んでくださいますように！



ご機嫌回復！ 第61栄幸丸で小泊に向かう

Nothing great is easy.

(偉大なことで簡単なものは何もない)

9月2日午前3時44分、小泊半島の先端にある権現崎沖合100m。キンちゃんは私手作りのチャンネルグリースをタツプリと塗り込んだ身体を真っ暗な空と海の中に沈め、120km離れた戸井を目指して泳ぎ始めた。

スタート後、第61栄幸丸は北西に舵を取る。それはあたかもゴール地点の戸井とは遠ざかる進路なのだが、慎重な安宅さんは津軽海峡



西口(竜飛崎～白神岬)中央を通過したかったのだ。まるで日本テレビの「津軽海峡横断リレー リベンジ!」のサンプルになるような福島に向かうコースである。

ちなみに日テレのコースは我々先導船が北西に進路を取ったとき、本部船の番組ディレクターから「もっと北に進路を取るように」と指示された。先導船は船頭さんを含め私も猛反対したが、「責任は私が取りますので」というディレクターには逆らえず、「雇われた身だから指示には従うが、これじゃ“先導”の意味がないな」と、船頭さんは文句を言いつつ渋々北に進路を取った。

結果かなり竜飛崎に寄り過ぎ、そのコース取りの誤りに痺れを切らした私は先導船に乗っているADの無線機を借りて、「これじゃ函館に着くかもしれないが、福島には着かないよ」とディレクターに言った。GPSから予定コースより大幅に流されていることを気付かせたのだ。慌てたディレクターは「もっと西に進路を取ってください!」と。船頭さんには「よく言ってくれた」と感謝されつつも、「今頃遅いんだよ!」とご立腹。「これからコース修正をしますので、速い連中を泳がせてください」と私。

こういうときにオリンピック競泳メダリストたちがいるのが羨ましい。徐々にコースは修正され、それから一切ディレクターは我々のコース取りに口を挟むことは無くなった。

そんなことを思い出しつつも、『もう少し竜飛に近いコースでも良いのでは…』などと私は考えてしまうのだが、安宅さん兄弟はあくまでも慎重なのだ。そして地元漁師のコース取りを私は尊重する。

日はとっくに昇った6時頃、第61栄幸丸はようやく北に向けて進路を取った。するとGPSが戸井に向かい始めたことを知らせるように「到着時刻」を表示し始めた。が、まだまだそんなものは当てにならない。

それから少しずつ第61栄幸丸は北東方向へ進路を取りつつ、9時30分頃津軽海峡西口を、コース上は予定通りに中央部で通過。遠くに東口（大間崎～汐首岬）がうっすら見える。その向こうまで行くのだ。

ただ「予定通り」と言えないのは進み具合だ。水温21℃、風も無く波も無い。絶好の遠泳日和と言いたいが、肝心要の潮（海流）までほとんど無い。本来ならば午前8時前に西口を通過していなければならないのに、進み具合は予定より1時間以上遅れている。

第61栄幸丸が北海道の矢越（北東）に向けて進路を取った10時頃、『おや、北東風が吹き始めたなあ～』と思ったら、海がいきなり暴れ始めた。風は山背となり、潮は今までの遅れを吐き出すように速く流れ始めた。潮と風がぶつかり合い、鬨ぎ合っているのだ。



山背は東北地方から北海道にかけて太平洋側で吹き荒れる

仮に波と風が同一方向へ進む場合は波頭が丸くなる。しかし波と風が逆方向へ進む場合は波頭が尖って三角波になるのだ。「三角波」と言うと皆さん形は「正三角形」とか三角定規の「直角二等辺三角形」を想像すると思うが、この三角形はそんなものではない。第61栄幸丸から見たその波はまるで水の壁だ。眼前に立ち上がる高さ2mの水壁を、“グローン”、“グローン”と次から次へ粉碎しながら進む。その度に大揺れに揺れ、まるでジェットコースター状態。

このときに『面白いなあ～』と思った光景は、数十羽のウミツバメ（海鳥）が「海に浮いている」と言うよりも、「壁にくっついている」状態なのだ。まあ船が近付けばいっせいに飛び跳ねて逃げるのだが、次の水壁がやって来ると、その壁にウミツバメがくっついている。落ちないのが不思議なくらいに…。こんな光景を見たのは生まれて初めてだ。

こんな状態でキンちゃんを第61栄幸丸の横に付けるのは困難なのと危険なため、船の前を泳がせることにした。こんなときにキンちゃんは強い。状況の判断力に優れているのだと思うが、「私に着いていらっしやい！」とでも言いたげに波高 2m の壁に突っ込んで行く。まあ「突っ込んで行く」というよりも、壁に昇って行くときはキンちゃんの後姿が立ち上がって見え、壁の向こうに落ちるときは何も見えなくなる光景と表現したほうが正しい。

まあラフウォータースイムを得意とするキンちゃんだから私に心配は無いのだが、慎重な安宅さんは相談してきた。「いつやめようか」と。

石井「いや、まだ大丈夫です！」

このとき GPS を見て驚いた。何とスピードが時速 12km。

「ヒェ〜〜、ランニングの速さだ！！」

しばらく続いたこの暴れ海も 11 時頃には通り過ぎ、いきなり海は静かで穏やかになった。海が穏やかになって潮が時速 12km で押してくれれば申し分ないのだが、そうは問屋が卸してくれない。潮は弱くなり、しかも南に向きを変え始めた。第61栄幸丸はこの南向きの潮に逆らうかのようにやや北寄りに進路を取った。

それでも正午頃までは順調だと言って良いだろう。北海道の知内にある発電所の煙突がみるみる見えるようになった。函館山は沖合から見ると鯨の形に似ているが、それもハッキリ視認出来る。

午後 2 時頃、いつもお世話になっている宿泊施設「トールパスヴィレッジ・ムーイ（函館市戸井ウォーターパークオートキャンプ場）」の支配人、中村さんから電話が入った。

中村「何時頃戸井に着きますか？」

石井「そうですね、GPS によりますと後 8 時間。午後 10 時頃に到着予定です」

中村「わかりました。戸井町の放送で町民に迎えに出るよう放送しますので」

『ウ〜〜ン…、GPS 通りに行くかな？？？』



キンちゃんとムーイの支配人、中村さん

午後 4 時頃から潮はほとんど動かなくなり、再び北東風が山背になって吹き始めた。この山背が波を呼び、第 61 栄幸丸はキンちゃんの側で伴走することが困難になってきた。安宅さん兄弟と協議し、到着地点を戸井から函館山に変更した。ところがこれもドーバー同様スイマーは蚊帳の外。キンちゃんは何も知らずに「景色が変わらん！」と文句を言っている。

安宅（兄）さんが第 61 栄幸丸の船首に陣取り、舷から身を乗り出して大きく腕を振り、キンちゃんの進路を誘導する。しかしこれも明るいうちは良いのだが、暗くなると見えない。そこで安宅（兄）さんはライトで合図を送るのだが、あとでキンちゃんに聞くと「あれは応援のためのライトだと思っていた」とのこと。

一般に船はスロー（エンジンをアイドリング状態でクラッチをつなぐ）でもスイマーのキンちゃんよりスピードは速い。したがってエンジンをアイドリング状態にしてクラッチをつないだり切ったりしてスピードをスイマーに合わせる。無風の場合はこれで問題ないが、山背のような強風が吹いている中で、しかも風向きとは異なる方向へ進路を取りながらの操船は困難を極める。

つまりアイドリングでもクラッチをつないでいれば船は舵が取れる。しかしクラッチを切った途端に船は一番風の抵抗が受けやすい方向に向きを変える。だから船は“アイドリングでコース修正をして”と“風で向きを変えられて”を繰り返すので、ジグザグ蛇行走行となる。ちなみに海水にプッカリ浮いている小型船と、その身体の手ほとんどが水に没しているスイマーとを比べると、風の影響は断然小型船の方が強くなる。



終了後の宴会（右は安宅さんの娘さん）

夜になって山背は更に強さを増して吹き付けてくる。第 61 栄幸丸とキンちゃんとの距離が更に広がる。キンちゃんを誘導させるための有効な対策を練り始めた。それが「いさり火誘導」である。津軽海峡には夜になるといくつものイカ釣船がでる。そのイカ釣船にはどれも「集魚灯」と呼ばれるものすごく明るい電気を灯してイカを釣るのだ。その明るさは空まで届くように明るい。だから水面からでも見えると思ったのだ。いくつもある集魚灯の「最も左の明かりを目指せ！」と指示を出したのだが、風波の中で泳いでいるキンちゃんにとって、その物標である明かりはやはり波間で見えたり見えなかったり…。

メガホンを使って指示をするが、耳栓をしているキンちゃんには波の音、風の音が邪魔してうまく聞こえない。更に追い討ちをかけるように「進んでいない」という気持ちがキンちゃんの「継続させよう」という気持ちを奪っていく。万事休すである。GPSでは実際に進んでいないわけではない。だが“時速10km以上”の最大スピードに比べれば、現在の“時速1km”という10分の1以下のスピードは、誰しものが「進んでいない」と感ずることだろう。

キンちゃんは泳ぎを止めては方向を確認し、泳いでは再び止まって確認しを繰り返した。そのうち「もう泳げん！」が始まった。ドーバーと一緒にいる。どこかで気力の糸がプツリと切れてしまったのだ。

夜⇒見えない。風⇒進まない。波⇒聞こえない。マイナスな要因はいくらでもある。しかしこれが海なのだ。何が起こるか分からない。しかしそこに醍醐味や面白さがある。当然苦しさや辛さもあるのだ。それを乗り越えたとき、真の感動が味わえる。今回は次回にその感動を味わうための序章としておこう。

ちなみに函館山までは残り4.5マイル(約8.3km)だった。

—— 日本一の富士山とキンちゃん ——



キンちゃん、“日本一”を目指しています。
これからもご声援をよろしくお願いいたします。

< 津 軽 泳 の 詳 細 >

日付：2009年9月2日（火）

場所：津軽海峡<青森⇒北海道+日本海⇒太平洋>（距離120km）

泳者：藤田美幸（キンちゃん）

方法：1-way solo swim（縦横断泳）

出発：小泊半島権現崎（青森）

到着：函館市戸井（北海道）

結果：**03:44⇒20:29 16時間45分** リタイヤ

概況：天気 晴れ時々曇り

視界 10海里（20km）

風向 主に東

風速 1.3～12.0m/sec

気温 18.6～23.9℃

水温 20.5～23.0℃

波高 0.5～2.0m

ピッチ 59～67回/分

補給 炭水化物+果糖+茶類=300ml/40分毎

流向 北東および東北東方向（海流）

流速 0.0～4.0kn（0.0～7.4km/h）

潮汐：函館（北緯 41度47.0分 東経 140度44.0分）

日出 05:03

日入 18:09

月出 16:53

月入 02:19

月齢 12.7

潮名 中潮

満潮 01:29 0.92m

干潮 08:35 0.29m

満潮 15:21 0.85m

干潮 20:31 0.56m

船名：第61栄幸丸（4.9ト）

船頭：安宅 勉

船頭：安宅善春

監督：石井晴幸

※ 津軽海峡の主な流れの成分は「海流」であって、日本海から太平洋に向かって流れている。この海流に対し、「山背」などの主な風は東風が多く、特に竜飛（青森県津軽半島最北端）は“風の名所”として有名で、風力発電の風車がいくつも見られる。

※ 今回は竜飛の風速が10m/sec以下で実施した。津軽海峡内の風が竜飛の風以下だと想像できたからだ。ただ風向きが西ならもっと良かった。



伴走船から陸に上がり、再挑戦を誓う藤田さん＝2日午後11時10分、函館・戸井漁港

津軽海峡 斜め遠泳ならず

【函館】愛知県岡崎市の遠泳愛好家、藤田美幸さん(43)が2日、青森県から津軽海峡を

【函館】愛知県岡崎市の遠泳愛好家、藤田美幸さん(43)が2日、青森県から津軽海峡を

斜めに渡る約12キロの単独遠泳に挑戦した。逆風と波に阻まれ、ゴールの函館まで約13

キロの地点で断念したが、「来年も挑戦したい」と新たな闘志を燃やしている。

2日午前4時、コー子の石井晴幸さん(56)が乗る伴走船に誘導されながら、津軽半島西部の小泊岬

(青森県中泊町)を出発。日没後は北海道の夜景を横目に懸命に泳いだ。向かい風が強まって波も高くなり、午後8時30分、函館市

磯川町沖で伴走船に収容された。

函館・戸井漁港で船を下りた藤田さんは「函館山を目前にしな

がら前に進まなくなっ

た。自然には勝てませ

ん」と残念そう。ただ、「来年は津軽海峡斜め横断と、英仏間のドーバー海峡往復という二つの目標を実現した

と残すところ、ただ、「来年は津軽海峡斜め横断と、英仏間のドーバー海峡往復という二つの目標を実現した

と残すところ、ただ、「来年は津軽海峡斜め横断と、英仏間のドーバー海峡往復という二つの目標を実現した

と残すところ、ただ、「来年は津軽海峡斜め横断と、英仏間のドーバー海峡往復という二つの目標を実現した

い」と話した。

藤田さんは2002

年、東京の水泳団体が

募集したドーバー海峡

を6人でリレー横断す

る企画に参加。その後、

同海峡の単独横断に、

日本女性で最多の6回

成功。津軽海峡を横断

した例は、藤田さんを

含めこれまでもある

が、単独で斜めに渡っ

た例はないという。

単独遠泳で津軽海峡斜め横断挑戦

愛知の43歳女性

強い向かい風、波高く

ゴール目前断念

愛知県岡崎市の遠泳愛好家、藤田美幸さん(43)が2日、本県側から津軽



泳いで津軽海峡斜め横断に挑戦したが断念し、船から降りる藤田美幸さん(北海道新聞社提供)

ゴールの函館まで約130キロの地点で断念したが、来年も挑戦したい」と新たな闘志を燃やしている。

2日午前4時、コーチの石井晴幸さん(56)と東京都が乗る伴走船に誘導されながら、中泊町の小泊岬を出発。日没後は

函館・戸井漁港で船を下りた藤田さんは「函館山を目前にしなから前に進まなくなった。自然には勝てません」と残念そう。ただ、「来年は津軽海峡斜め横断と、英仏間のドーバー海峡往復という二つの目標を実現したい」と話した。

藤田さんは2002年、東京の水泳団体が募集したドーバー海峡を6人でリレー横断する企画に参加。その後、同海峡の単独横断に、日本女性で最多の6回成功した。津軽海峡を縦断した例は、藤田さんを含めこれまでもあるが、単独で斜めに渡った例はないという。



最後まで読んでいただきありがとうございました。
ドーバー泳に関しましては今年、
2010年と2011年の分まで予約してまいりました。
少なくとも10回は泳ぎたいドーバーです。
もちろん近い将来に2-wayも成功させます。

津軽泳に関しても今年の未完泳から、
“必ず泳ぎ着けるまで続ける”と誓いました。
未熟で若輩者でございますが、
何とか成功できるよう願い、
努力邁進する所存です。

これからも皆様の暖かいご声援・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

2009年 藤田美幸 石井晴幸